

2023/9/14 (資料)

Pattern of Life 内面的な出来事

Style of Life 外見上、観察可能なもの

後に Early Recollections という題の章 (18) がある。

なお、Style of Life (次章) には early recollections がない

(資料1)

…it began to rain that day.

The Science of Living (4章 The Style of Life)

(資料2)

☆ジョゼフ・ラドヤード・キップリング (Joseph Rudyard Kipling, 1865年12月30日 - 1936年1月18日) は、イギリスの小説家、詩人で、イギリス統治下のインドを舞台にした作品、児童文学で知られる。ボンベイ (ムンバイ) 生まれ。19世紀末から20世紀初頭のイギリスで最も人気のある作家の一人で、代表作に小説『ジャングル・ブック』『少年キム』、詩『マンダレー』など。「短編小説技巧の革新者」とみなされ、児童向け作品は古典として愛され続けており、作品は「多彩で光り輝く物語の贈り物」と言われる。1907年にノーベル文学賞を、41歳の史上最年少で、イギリス人としては最初に受賞。

☆The Winners (1888年に出版された The Story of the Gadsbys という戯曲の巻末に掲載) という題の6行4連の詩の、各連の最後の行に、テキストに引用されているフレーズが配されている。最初の連のフレーズの前は Down to Gehenna or up to the Throne

☆2020年に公開された映画『1917 命をかけた伝令』で伝令を伝える将軍の台詞として採用されている。「地獄に行くも、天国に行くも。もっとも早き旅人は常に1人」

(資料3)

アドラー先生の治療目標（上掲同書より）

**It is our task to give such a person the social interest demanded of a well-adjusted human being.** How is this to be done? The great difficulty with persons trained in this way is that they are overstrained and are always looking for a conformation of their fixed ideas. It thus becomes impossible to change their ideas unless somehow we penetrate into their personality in a manner that will disarm their preconceptions. To accomplish this it is necessary to use a certain art and a certain tact. And it is best if the adviser is not closely related or interested in the patient. For if one is directly interested in the case, one will find that one is acting for one's own interest and not for the interest for the patient. The patient will not fail to notice this and will become suspicious.

社会によく適応した人に要求される共同体感覚を与えるのが、私たちの課題です。どのようにすれば、このことは可能でしょうか？ 上に見た仕方では訓練されてきた人にとっての大きな困難は、過度に緊張しており、いつも自分の固定した考えを確認する事実を探し求めている、ということです。それゆえ、何とかして、そのような人の先入見をいわば武装解除するような仕方では、人格の中に立ち入るのでなければ、考えを変えることは不可能です。このことを成し遂げるためには、ある技術とコツが必要です。この場合、助言者が患者と緊密に関係しておらず、利害関係がないのが最もよいのです。なぜなら、ケースに直接の利害関係があれば、患者の利害ではなく、助言者自身の利害のために助言をしているように見られることになるだろうからです。患者は、必ずこのことに気づき、疑い深くなるでしょう。

**The important thing is to decrease the patient's feeling of inferiority.** It cannot be extirpated altogether, and in fact we do not want to extirpate it because a feeling of inferiority can serve as a useful foundation on which to build. **What we have to do is to change the goal.** We have seen that **his goal has been one of escape just because someone else is preferred, and it is around this complex of ideas that we must work.** We must decrease his feeling of inferiority **by showing him that he really undervalues himself.** We can show him the trouble with his movements and explain to him his tendency to be **over-tense**, as if standing before a great abyss or as if living in an enemy country and always in danger. We can indicate to

him how his fear that others may be preferred, is standing in the way of his doing his best work and making the best spontaneous impression.

重要なことは、患者の劣等感を減じることです。劣等感をすっかり取り除くことはできません。実際、私たちはそうすることを望んではいません。なぜなら、劣等感は、パーソナリティ形成の有用な基礎となるからです。しなければならないことは、目標を変えることです。上のケースでは、患者の目標は、他の人が自分より愛される、ということを理由に逃避する、というものであることを見ました。私たちが取り組まなければならないのは、このような考え方です。自分を過小評価していることを示すことで、劣等感を減じなければなりません。即ち、彼の行動にはどんな困難が伴っているかを示し、あたかも大きな深淵の前に立っている、あるいは、敵国の中に住んでいて、いつも危険にさらされているかのように、過度に緊張している、という傾向を彼に説明することができます。また、他の人が自分よりも愛されるのではないか、という恐れが、彼が仕事を立派に成し遂げたり、他の人に勞せず好感を持ってもらうのを妨げていることを示すこともできます。

「個人心理学講義 岸見一郎訳」